



令和のWell-being学級経営

日本授業UD学会中国支部/子どもの学びを創る会
飯田 将之

Well-being 人間としての幸せのカタチ

自分で何かできるようになった幸せ
「できた、わかった、解決できた」などが実感できる幸せ

人から何かしてもらった幸せ
「信頼してもらおう、支えてもらおう、理解してもらおう、褒めてもらおう」などの幸せ

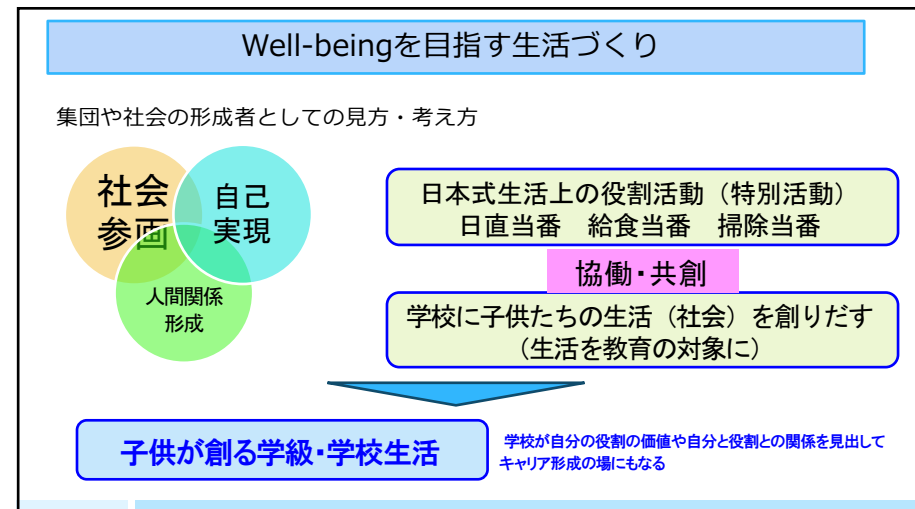
人に何かを与える幸せ
「愛、期待、思いやり、優しさ」などを人に与える幸せ

次期教育振興基本計画（文科省）を「学級経営」の視点から読み解く

- ◎一人一人が良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要である。
- ◎自尊感情や自己効力感が高いことが人生の幸福もたらす（獲得的要素）
利他性、協働性、社会貢献意識など、人とのつながり・関係形成に基づく（協調的要素）
→「同調圧力」につながるような組織への帰属を前提とした閉じた協調ではなく、他者とのつながりやかかわりの中で共創する基盤としての協調
→組織や社会を優先して個人のウェルビーイングを犠牲にするのではなく、個人の幸せがまず尊重されるという前提に立つ
- ◎自ら社会を形成する一員であり、合意形成を経て自らルールや仕組みをつ得ることができる存在であるという認識を持つことが重要である。

Well-beingを目指す生活づくり

集団や社会の形成者としての見方・考え方



日式生活上の役割活動（特別活動）
日直当番 給食当番 掃除当番

協働・共創

学校に子供たちの生活（社会）を創りだす
（生活を教育の対象に）

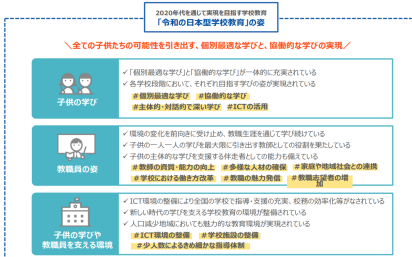
子供が創る学級・学校生活

学校が自分の役割の価値や自分と役割との関係を見出して
キャリア形成の場にもなる

次期教育振興基本計画（文科省）を「学級経営」の視点から読み解く

◎これまで学校では「みんなで同じことを、同じように」することを過度に要求され、「同調圧力」を感じる子供が増えてきたことが指摘されている。異なる立場や考え、価値観を持った人々同士が、お互いの組織や集団の境界を超えて混ざり合い、学び合うことは「同調圧力」への偏りから脱却する上で重要・・・（中略）・・・土壌として、「風通しの良い」組織・集団であることが大切である。

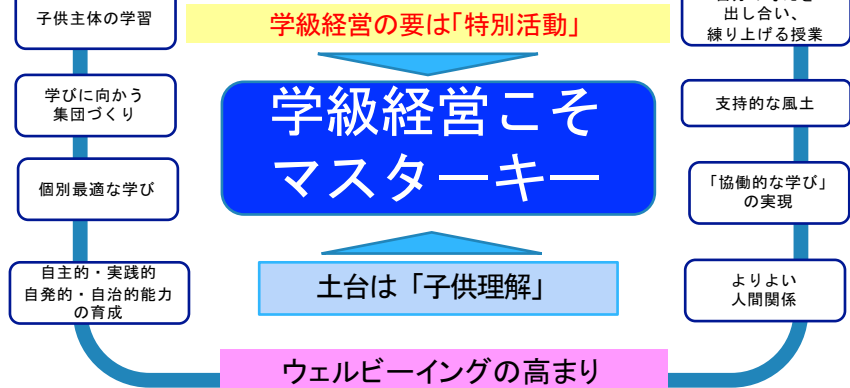
3. 2020年代を通じて実現すべき「各年の日本国学校教育」の姿



「正解主義」や「同調圧力」への偏りからの脱却

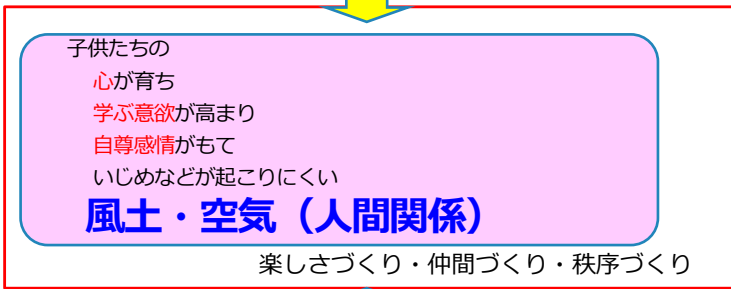
一人一人の子供を主語にする学校教育の実現

主体的・対話的で深い学び



子供と共に支持的風土を創る

子供たちの自主的・自治的な取組(=特別活動)



教師による指導(受容・要求・先導)

國學院大学 杉田洋 教授 (2017) を参考に

小学校学習指導要領解説より

◆第1章総則 第4の1の(1)

学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から**学級経営の充実**を図ること。

◆第6章 特別活動 第3の1の(3)

学級活動における児童の自発的・自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、**学級経営の充実**を図ること。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。

◆特別活動(解説) 学級経営の充実と特別活動

学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的・計画的な指導とともに、児童の主体的な取組が不可欠である。まさしく、**学級経営は、特別活動を要として**計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、さらなる深化が図られることとなる。

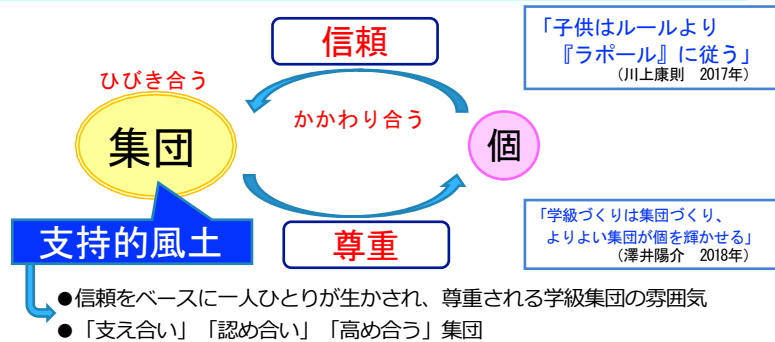
「学級経営」の落とし穴（同調圧力の脱却）

- ✔ 厳しくしつけることで、学級の規律と秩序を維持しようとしている。
- ✔ 授業中に「考えているか」よりも、姿勢や態度などが気になって指導している。
- ✔ 授業中に「話型」に当てはめて発言するように、初めから強要している。
- ✔ 授業中に「わかりました」「同じです」「他に意見があります」など一律的な反応をさせている。
- ✔ 日直当番に姿勢が悪い子、おしゃべりをしている子などを注意させている。
- ✔ 学級に「宿題係」や「忘れ物係」などがあって、子供にチェックさせている。
- ✔ 忘れ物をした子供の名前は、黒板の端に書き残している。
- ✔ 宿題の提出を、シールなどに一覧にしている。
- ✔ 読書量や課題など、全員分の数値をグラフ化やランキング化して示している。
- ✔ 「ビー玉貯金」で、全員が忘れ物をしなければビー玉を入れる仕組みを作っている。
- ✔ 何か問題を起こした子供がいたら、学級みんなの休み時間を無しにしている。

学級経営にも 理論がある

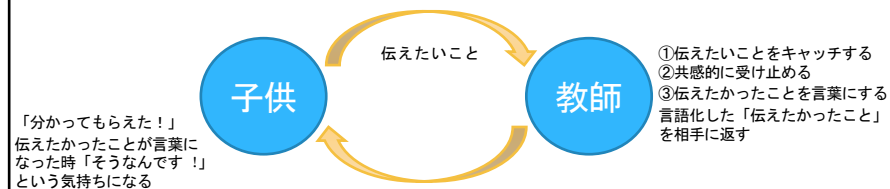
学級の人間関係・集団づくりの基盤

「 」と「 」



「信頼関係」を築くために

- **あなたたち一人ひとりを大切する**、という思いを伝える
- **絶対に一人も見捨てない**という信念
- Iメッセージで伝える（「先生、あなたの頑張りが見られて嬉しいよ」）
- 【一貫性のあるブレない指導】と【**任せる指導**】
- **子供の思い、声を聴く**



学級経営の「織物モデル」論（横藤，2011）

縦系 → 一人ひとりの子どもとの信頼関係

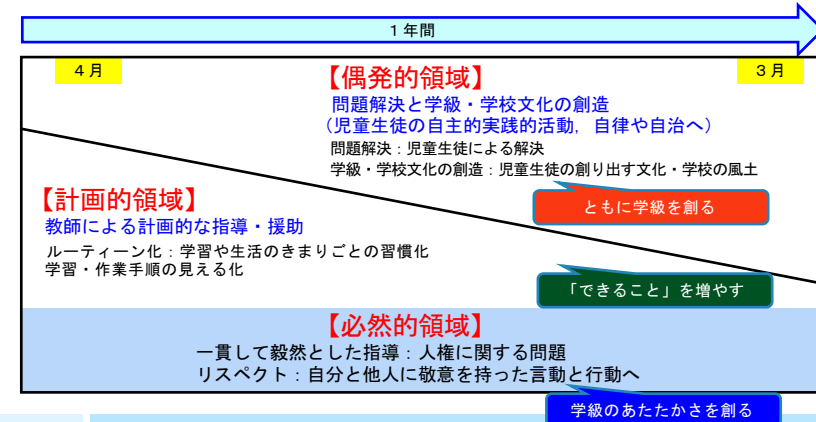
- 教師と子供との関係づくり
- 挨拶，返事，言葉づかい，学級内の規律を確立して，教師と子供との縦のつながりを生み出すこと

横系 → 子供同士の強くしなやかな協働関係

- 教師と子供との心の通じ合い，子供同士の通じ合い
 - 一緒に遊ぶ。良い点を伝え，ほめて励ます。笑い合える伸びやかな雰囲気を創りだす。子供同士で支え合い，助け合い，学び合うことができる。
- 特別活動で育てられる！

川上康則先生 講演を参考に（2018年）

学級経営の三領域（白松賢，2017）



特別活動（学級活動）の目標

特別活動の目標

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力
 「人間関係形成」
 「社会参画」
 「自己実現」

学級活動の目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

学級活動(1) 学級活動(2) 学級活動(3)

「学級活動」の3つの内容

学級活動(1)

- ア 学級内における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活向上

自分たちでよりよい学級生活を創るために、生活の問題や学級で実践することを全員で話し合っ【 】すること

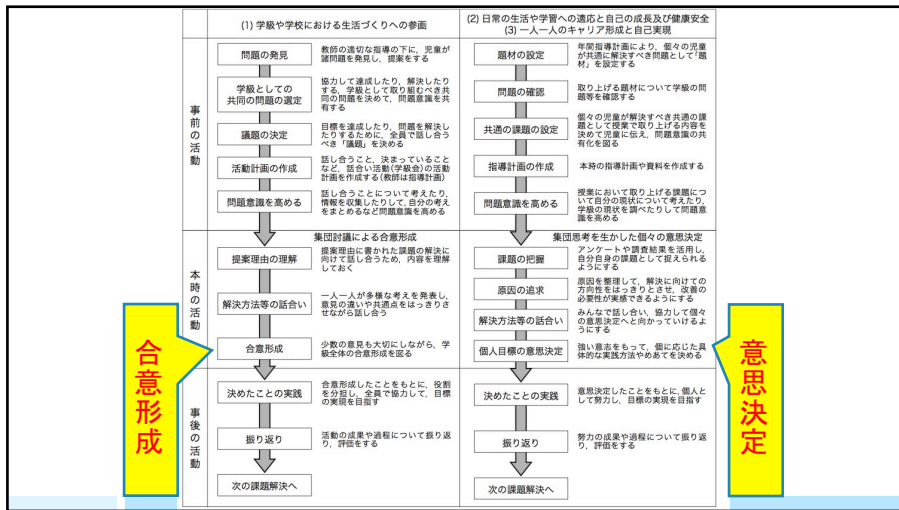
学級活動(2)

- ア 基本的な生活習慣
- イ よりよい人間関係
- ウ 心身ともに健康で安全な生活態度
- エ 食育の観点を踏まえた学校給食と食習慣

学級活動(3)

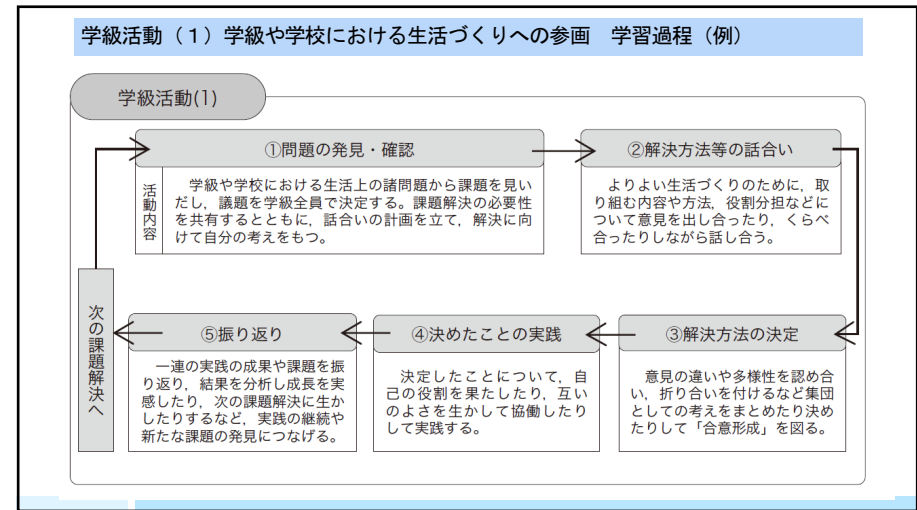
- ア 現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度
- イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義や理解（清掃などの当番活動や係活動）
- ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の利用

自分自身の課題を見つめ、よりよい自分になるための具体的な努力目標を【 】すること



合意形成

意思決定



事例1 学級目標を子供のものにする

- ①〇年生ってどんな学年かを知る。(学習・行事・生活など)
- ②学校の教育目標、学級担任や保護者の願いを知る。
- ③一人ひとりが「なりたい自分」(なりたいクラス)を考える。
- ④それらを黒板に可視化、分類・整理し、目標文にまとめる。
- ⑤学級生活の中で、何をどのように頑張るのかを個人目標を決める。(「意思決定」)

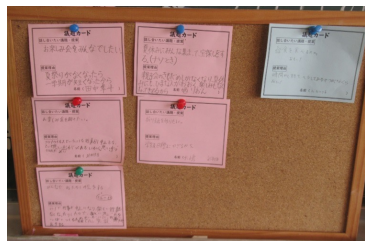
◎同調圧力にはしない!
「よりよい集団のために個が寄与する」ための目標づくりではなく、
「個々の願いが実現できるような集団にする」ための目標づくりへ

「学級目標」を子供に届かせるために

- ①学級目標を にしない
学級目標を明確にし、何をめざすか共有する
- ②目標に向かう行動を
学級としての誇りと財産が生まれる
- ③学級の を築く
学級への愛着、学級全体の向上意識

事例2 学級会で合意形成のプロセスを重視する

◎自分たちの問題を
自分たちで話し合って解決する
⇒自治的な集団づくり
問題解決の力
よりよい人間関係形成



事例2 学級会で合意形成のプロセスを重視する

学級会の話し合いプロセス
① 自分の考えを出し合う
② 考えを比べ合う
③ まとめる・決める

★時間を意識し、活動を区切る。
出し合う～比べ合う～まとめる

★「選ぶ」話し合いから「練り上げる」話し合いへ
～が盛り上がる工夫を決めよう
～が成功するためにどうしたらよいか？

★安易な多数決にならないために、「提案理由」に立ち返った賛成・反対意見を大切に

学級会のポイント

議題化

生活改善（諸問題の解決）

- 自分たちのあいさつを見直そう
- 休み時間の過ごし方を見直そう
- けんかのない「全員遊び」をするためには？

生活向上・生活創造

- 30人31脚を成功させよう
- 学級の歌をつくろう
- 学級の旗をつくろう
- ギネス記録に挑戦しよう
- 目標達成の記念パーティーを開こう
- 学級お別れ集会を開こう
- 学級目標プロジェクトを立ち上げよう

学級目標の実現につながるか？

学級会のポイント

意図的な声かけ・働きかけ

議題化

“議題がないって本当？”

- 「～さん今話したことを提案してみよう。」
- 「それは面白そう！みんなに提案してみようよ！」
- 「～さんの今の気持ち、学級会で何かできないかな。」
- 「そういうことをみんなで協力できれば、学級目標に近づくな。」
- 「～君が日記に書いたこと、みんなの問題として話し合おうよ。」
- 「～係としていい提案になるよ。」
- 「いいところに気付いたね。それ議題にできないかな？」
- 「先生もどうにかできないかなと思ってたよ。提案者になってよ。」



子供たちが創り出す学級会・学級集会

ポイント①

議題に子供たちの がある

- ◎学級目標の実現（したい、解決したい、創りたい）
- ◎自分たちでできるか（現実性）・自治的な範囲

ポイント②

教師が出るところと子供に ところを明確に

- ◎議長団を育てる

ポイント③

目的意識（目標設定）と を重視する

- ◎入口と出口を明確にし、振り返りによって自己の成長を自覚化させる

事例3

教室に温かい言葉を増やす

言葉に向き合う 言葉の価値やよさを問う

陰口



1 仲間を待つ言葉

- ・一緒にいこう
- ・待ってるよ
- ・あてなくても大丈夫
- ・まだ間に合うよ
- ・お互い様だね

2 仲間を励ます言葉

- ・絶対にできるよ
- ・一緒にがんばろう
- ・こんな工夫はどう
- ・間違ってもいいんだよ
- ・君のおかげだよ
- ・助かるよ

3 仲間を支える言葉

- ・手伝うよ
- ・一緒にやろう
- ・どうしたの？
- ・僕に何かできることはある？
- ・なんだか嬉しいな
- ・ありがとう

事例3

教室に温かい言葉を増やす

ハッピーカード

- 目的 仲間のよさを見つけ認め合い、温かな関係をつくる。
- 方法
 - ・朝、小さなカードを全員に配る。
 - ・横ペア、縦ペア、出席番号など指定し、全員がもらえるようにする。
 - ・友達の良いところを探して書き、帰りの会で交換する。
 - ・性格ではなく、できるだけ具体的な行動面を書くようにする。

ひみつの友達

- 目的 優しい行動を増やし、温かな人間関係をつくる。
- 方法
 - ・朝、出席番号が書いたくじを引く。（その子がひみつの友達）
 - ・ひみつの友達に、一日のうち何らかの形で優しさを送る。
 - ・誰がひみつの友達かは教えてはいけない。
 - ・帰りの会で、ひみつの友達当てゲームをする。

全員で、
一人の友達のよさや頑張りを伝える場

特別活動で大切にしたい視点

- 自分で目標を決めて、やり遂げる経験
（自分もできるかも！→挑戦する自分のよさ）
- 「みんなでやってみよう！」楽しい活動を
（話し合おうって楽しい！ みんなでやるって楽しい！→友達と話し合う・関わるよさ）
- 他者の思いを尊重し、1つに決める経験を（合意形成）
- 安易な多数決の否定
- 自分たちの問題を自分たちで解決する経験

自己肯定感（自分にはよいところがある・やればできる）
自己有用感（自分は必要とされ、役に立っている）

特別活動で育てたい言葉の力 他者を受け止める共感力

□論破や言い負かしではなく、相手に寄り添った発言

「～はだめだと思います。」 「もし～したらどうするのですか。」

「～はとてもいいと思うけど、もう少し～したら、もっと良くなると思います。」

※みんなにもよくて自分にもよい、そのためにはどうすればよいかを考え、行うのが学級会で身に付けたい思考力・判断力・表現力

□「わたしたちは」を主語に、自分の思いや考えを語る力

□話し合い活動(学級会)を通じて身に付けさせたい言語能力

- ・意見や質問に対する切り返し方
- ・根拠を述べる必要性の理解と述べ方
- ・反対意見の際には代案を用意すること

基盤は学級経営

思いが自由に語れる雰囲気 学級への愛着

学級経営における教師の構え

★一人一人の子ども理解 (個の高まりを期待し、認め、励ます)

目の前の子供の姿や事実を大切に

⇒子供のよさや持ち味を生かす

★子供を信頼し、「任せる」

「あなたを信じるよ」「あなたに任せるよ」「君ならきっと大丈夫」

★目標に立ち返らせる(問う)

「どんな自分になりたいの?」「今の姿が目標とする姿?」

(あなたの目標を応援しているよ)

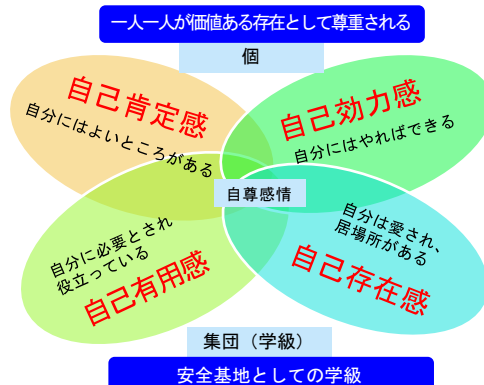
★一人一人の小さな変化や成長を価値付ける



子供のWell-beingの高まりを目指す教師へ

自分で何かできるようになった幸せ
人から何かしてもらった幸せ
人に何かを与える幸せ

全ての子供たちの幸せのために
最後まで教師であり続ける

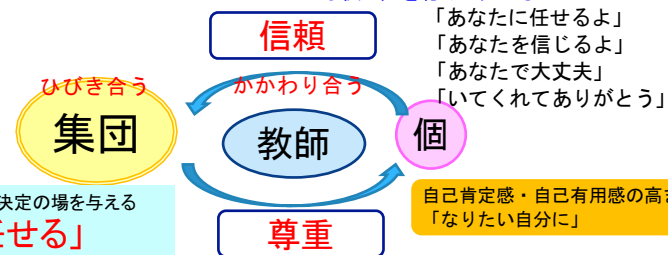


特別活動が子供たちの「ウェルビーイング」につながる!

学級の間人間関係・集団づくりの基盤

「信頼」「尊重」

教師も一人一人の子どもを信頼し、尊重する
子供の「なりたい自分」を伴走支援する
子供の声を聴く・任せる



子供に自己決定の場を与える

「任せる」

自己肯定感・自己有用感の高まり
「なりたい自分に」

学級が安全基地に